

令和6年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部野菜科

1 目的

にんじんの4～5月どり栽培は、低温期を経過する栽培であり、肥大促進や抽苔抑制を図るためには農ポリ等でのトンネル栽培が必要である。農業開発総合センターの研究成果によると、大隅地域では不織布ベタがけ栽培で10月上旬～11月上旬は種が可能との報告がある。

そこで、農業大学校でのにんじんの4～5月どり不織布ベタがけ栽培のは種適期の検討を行い、日置及び南薩地域のにんじん産地の振興に役立てる。



2 実施状況

(1)10月中旬～11月中旬播種と不織布ベタがけの実施

播種を、10月中旬(10月15日)、下旬(10月28日)、11月中旬(11月13日)に行い、不織布のベタがけを12月17日に全播種期で行った。除去は2月14日に行った。

(2)不織布ベタがけがニンジンの生育収量に及ぼす効果

不織布ベタがけを12月17日に全播種期で行ったため、播種からベタがけまでの日数が播種期で異なった。そのため、ベタがけ開始時の生育も播種期で異なった。すなわち、10月中旬は種では葉長が10～15cm程度に生育していたが、11月中旬播種では発芽も完了していなかった。10月中旬播種では、無被覆区、不織布区ともに生育は良好であった。10月下旬播種では無被覆区に比べて不織布区で葉長がより長く、根重はわずかに増加した。11月中旬播種では不織布区で、葉長、根重ともに無被覆区より優れたが、生育は極めて遅く、4～5月収穫には間に合わなかった。



収穫物調査（上段から、10月中旬播種、10月下旬播種、11月中旬播種。
写真左は2月14日収穫撮影、右は2月27日収穫撮影）

3 今後の課題、取り組み

- (1) 不織布をベタがけすると、不織布下の雑草の発生状況を見ることができない。雑草の発生と雑草除去に注意する。
- (2) 11月播種では、不織布ベタがけでも発芽は不良となる。今後検討する場合は、播種時期は10月下旬まで、不織布ベタがけは12月上旬、という作型で計画する。

※なお、最終実績については、収穫が終了した段階で公開します。